

所属 法学部 職名 教授

氏名 山田崇人

<研修概要>

以前から交流のあった Kathleen Wheeler 教授に連絡を取り、彼女の所属する Darwin College で受け入れてもらえることになったので、大学より 1 年間の研修期間をいただき、2019 年 4 月 1 日より 2020 年 3 月 31 日までケンブリッジに滞在した。

Wheeler 教授とは月に 1 度程度カレッジで会い、交流を持った。またケンブリッジ大学で行われたさまざまなテーマの連続講演やセミナーに参加して刺激を受けた。例えば *Translation and Multimodality* という書籍の出版を記念して行われたセミナーでは、何かを伝えるのに、単に文字だけでなくさまざまな形態の媒体によって情報が伝達される現代においては、翻訳のあり方を見直さなければならないことが議論され、外国文学を研究し、翻訳紹介も行っている自分にとっては大いに学ぶところがあった。

それ以外は、自宅または大学図書館で、ワーズワス、コウルリッジの著作を念入りに読み直し、分析するという作業を行った。ワーズワスの Yew-trees という詩は、コウルリッジが重要な詩と認めたが、その根拠を十分に示さなかったため人々を悩ますことになり、これまであまり論じられてこなかった。しかし最近様々な観点から論じられるようになってきている。この詩についての考察を近々論文にまとめる予定である。

コウルリッジの自然観については、彼の残した膨大なノートブックに目を通し、その中から自然に関して述べているものや風景描写を行なっているものをピックアップして、分析を行なっているところである。これについては、東京コウルリッジ研究会のメンバーと共に、ノートブックの抜粋をテーマごとに分類して翻訳し、考察を加えていずれ出版する予定である、

また、ワーズワス、コウルリッジの詩において、自然描写や自然と人間との関わりを示す際に音楽の比喩が用いられることがある。自然の中に音楽が満ちているという比喩は以前からあるが、ロマン主義においては独特な捉え方があるように思われる。それについて調べ始めたところであり、それが次の研究テーマである。

それから、Xreading という、オンラインで多読を行える多読教育支援システムを効果的に使う方法についての実践報告を、2020 年 3 月発行の多読学会紀要に投稿したところ、Xreading の導入のしかたや具体的な使い方、利点や欠点など、これから導入する人の参考になることを入れてほしいと要求され、加筆修正に相当な時間をかけることになった。結果として、今回の COVID-19 の影響で多くの学校がオンライン授業を行うことになり、Xreading を導入するところが急激に増えたため、初めて使う人にとって少しは参考になったのではないかと思う。奇妙な巡り合わせであった。